

平成 25 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2013年4月～2014年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表  
します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満  
たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていた  
だきますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 宮城県気仙沼市立大谷中学校

種別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫教育  
 中学校  高等学校  中等高等学校  
 教員養成  技術/職業教育  
 その他 ( )

住所 〒 988 - 0273  
宮城県気仙沼市本吉町三島60-4

E-mail : ohya-chu@kesenuma.ed.jp

Website : \_\_\_\_\_

児童生徒数：男子 52 名 女子 40 名 合計 92 名  
 児童・生徒の年齢 12歳～15歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ( )

4. 活動概要

1年間の主な活動内容について簡単に記載願います（欄が足りなければ、添付資料をつけていただいても構いません）。

(1)

① 「ふゆみずたんぼ」について

「ふゆみずたんぼ」は冬の間、田んぼに水を張ることで鳥たちが集まり、そのふんや刈り残した稲株が分解され、微生物やイトミミズの栄養源となる。そして、微生物や小さな生きものが繁殖し働くことで田んぼが耕され、天然の肥料となって、稲を育ててくれる。さらに、その小さな生き物を食べるためにさまざまな生物が集まることで田んぼの自然のバランスが保たれ、稲を害虫や病気から守ることにもつながっていく。このように、農薬や化学肥料に頼らず、機械で耕すこともなく、自然の力を活かしながら、生きものの循環の中で稲を育てるのが「ふゆみずたんぼ」である。大谷中学校では、大小4つの田んぼを使い、3年生を中心として、種粃まきから、苗代づくり、田植え、稲刈り、雑草取り、脱穀、販売まで行っている。

② 活動の評価の観点と方法 (総合的な学習の時間「なみま」の観点で評価し文章で記述)

<観点>

- 課題設定への取り組み：学習への意欲、関心をもち自ら課題を見付け、課題を設定する能力
- 課題のまとめ方：自ら考え情報を集めたりまとめたりしてよりよく課題を解決する能力
- 課題解決への主体的な取り組み：課題解決や探究活動に主体的に取り組む態度
- 自己の生き方：自らのよさや可能性に気づき、夢や願いの実現に向けて行動する態度

③ 平成25年度のESDの実践の成果と課題

ア 活動の改善から

「地域に根ざした教育」が根底にあり、地域の自然をみつめる機会を通して復興という視点を考えることにもつながった。大谷の海で育ったウニの生態調査や海そうの生育調査ができたことは今後の活動にとって大きな進展になっていくと考える。

イ 生徒の変容 (生徒の感想からの抜粋)

- ・プレゼンテーションでまとめる力が身に付いたと思います。とても勉強になりました。農業の大変さも学びました。
- ・日常ご飯をあたり前に食べていることがどれだけ大切なものなのか分かりました。白鳥観察も楽しい体験でした。
- ・僕は「なみま」の活動をして、自然の大切さを学びました。
- ・自主的に動く力が高まったと思います。
- ・環境に対する興味が増し、プレゼンテーション力や発表する力がついて、何事にも率先してできるようになったと思います。
- ・地球温暖化など、現代の環境問題と向き合うことができた。
- ・家族がやっていた米づくりの大変さがよく分かりました。
- ・鳥の調査や田植えなどを通して人間関係の大切さを知りました。
- ・つながりのある生き物の生態を知り、田んぼの仕事をまたやってみたいと思いました。

ウ 環境教育イメージキャラクター・・・環境教育のゆるキャラをつくらうと校内コンクールで募集した。生徒の投票で、旧本吉町の魚の「マンボウ」と、「ふゆみずたんぼ」の米(ベイ)を組み合わせた「マンベイ」

